

つぎの未来へ



ゆんたく

2022年7月
都島
Vol.35

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

これまでの、そしてこれからの各施設の取り組み

令和4年度 昇進&異動職員紹介

本部からの報告

社会福祉法人 都島友の会

沖縄本土復帰 50 周年に寄せて

～平和への祈念、思い新たに～

社会福祉法人都島友の会
理事長 渡久地 歌子



最北端の辺戸岬

沖縄の特産品「芭蕉布」を題材に沖縄の美しい自然文化を歌い上げたこんな歌謡があります。

芭蕉布
海の青さに 空の青
南の風に 緑葉の
芭蕉は情に
手を招く
常夏の国
我（わ）した島沖繩（うちなー）

首里の古城の 石だたみ
昔を偲ぶ かたほとり
実れる芭蕉 熟（う）れていた
緑葉の下 我した島沖繩

今は昔の 首里天（すいてん）じゃなし
唐ラウーつむぎ はたを織り
上納ささげた 芭蕉布
浅地（あさじ）紺地（くんじ）の
我した島沖繩 沖縄

沖縄と法人の関わりについて

私たち法人と沖縄とのつながりについては、これまで再三述べてまいりましたように、法人の創設者 比嘉正子（旧姓 渡嘉敷周子）は沖縄に生まれ、17歳で那覇の教会の洗礼を受け、単身沖縄から大阪バプテスト女子神学校（現在ミッド社会館）に入学。やがて大阪市立北市民館で館長志賀志那人先生からの薫陶を受け、社会福祉事業の道に入ります。1931年比嘉正子26歳の

原稿を書いている今日、令和4年6月23日は「沖縄慰霊の日」にあたります。

糸満市の平和祈念公園で開かれた追悼式には岸田首相が出席され、「沖縄が世界の架け橋」となるよう取り組み「戦争の惨禍を二度と繰り返さない」「世界の誰もが平和で、心豊かに暮らせる世の中を実現するために不断の努力を重ねる」と誓われ、献花されました。

5月15日の沖縄復帰50周年記念式典には、天皇陛下も御所からオンラインで臨席され、「先の大戦で悲惨な地上戦の舞台となり、戦後も約27年間にわたり日本国の施政下から外れた沖縄は、日米両国の友好と信頼に基づき、50年前の今日、本土への復帰を果たしました。大戦で多くの尊い命が失われた沖縄において、人々は「ぬちどうたから」（命こそ宝）の思いを深められたと伺っていますが、その後も苦難の道を歩んできた沖縄の人々の歴史に思いを致しつつ、この式典に臨むことに深い感慨を覚えます。」と述べられ、「沖縄には、今なお様々な課題が残されています。今後、若い世代を含め、広く国民の沖縄に対する理解が更に深まることを希望するとともに、今後とも、これまでの人々の思いと努力が確実に受け継がれ、豊かな未来が沖縄に築かれることを心から願っています。美しい海をはじめとする自然に恵まれ、豊かな歴史、伝統、文化を育んできた沖縄は、多くの魅力を有しています。沖縄の一層の発展と人々の幸せを祈り、式典に寄せる言葉といたします。」とお言葉を結ばれました。

戦中、戦後の沖縄の歴史を紐解いてみますと、1945年（昭和20年）4月、アメリカ軍が沖縄本土に上陸し、日本軍と激しい地上戦が繰り広げられ、日本軍9万4136人、米軍1万2520人もの死者を出し、9万4000人以上もの沖縄の住民が帰らぬ

時、彼女の理想とする教育的要素と養護的要素を兼ね備えた「子どもの館」『都島幼稚園』を創設、以来、戦前戦中戦後と現在に至る法人の礎を築いていきます。
1974年（昭和49年）には沖縄本土復帰記念事業として、自身の生誕の地、首里金城町に保育園を設立、旧姓渡嘉敷の「渡」を取り、渡保育園と名付けました。永らく故郷沖縄と離れ離れになっていた比嘉正子にとつては、まさに念願叶った思いだったことでしょう。
1982年（昭和57年）には法人50周年記念事業として、那覇市民病院の近くに松島保育園を設立。こうして比嘉正子の社会福祉への思いはしっかりと故郷沖縄に受け継がれていくことになりました。

さて沖縄本土復帰50周年の記念すべき年に、現在、私たちは二つの大きな厄災に翻弄（ほんろう）されています。一つはこの3年間猛威をふるっているコロナ禍。そしてもう一つが本年3月に始まったウクライナ危機です。
昨年2021年、私たち法人は90周年を迎え、式典の準備までできておりましたが感染拡大のため執り行うことは叶いませんでした。しかしこの3年間、職員は法人施設の子どもたち、保護者、高齢者の皆さんをどう守るか、施設からは何としてもクラスターを出さないとい丸となって奮闘、頑張ってくれました。

一方、本年3月以来、私たちはロシアのウクライナ侵略を目の当たりにすることになり、戦争のむごさ暴力の残酷さを改めて目のあたりにすることになりました。
コロナ禍、ウクライナ危機、この二つの大きな厄災は今もなお終焉することなく、私たちの前に立ち塞がっています。本日「沖縄慰霊の日」に寄せて、あらためて平

人となりました。沖縄出身の軍人・軍属を含め、県民の4人に1人が亡くなったと言われています。

1945年8月15日に終戦、日本は敗戦国となった訳ですが、同年9月から1972年5月までの27年間、アメリカは沖縄を統治、米軍基地が次々つくられ、通貨はドル、車は左ハンドル、車は右側・人は左側通行などアメリカ統治下の時代が続きました。その間の時期を沖縄では「アメリカ世」と呼ぶそうです。

私事ですが、1969年（昭和44年）沖縄がまだアメリカ統治時代、私は沖縄の人と結婚し、年末から正月にかけて初めて沖縄へと帰省しました。その時はパスポートが必要でした。飛行機で行けば2〜3時間のところ、船旅を経験したいということで、関西汽船の黒潮丸で1日半（33時間）かけての旅をしましたが、大変でした。船酔いはする、体力的にも厳しかったです。与論島を過ぎると税関（海港）職員が乗り込み、荷物チェックです。その物々しいこと、忘れられない記憶です。

1972年本土復帰後、日本政府は沖縄振興に力を注ぎ、道路拡張整備、公共の建物の建て替え、離島との架け橋等、インフラ整備が行われ、現在では観光リゾート施設や空港などの社会資本は充実発展していますが、天皇陛下のお言葉の通り、今も自然は豊かに残っています。那覇空港から2時間、3時間ぐらい行くと、最北端には辺戸岬、カルスト地域、大石林山があります。又、ヤンバル mangrove 森林等、太平洋と東シナ海がぶつかりあうキレイな海。海の底まで見える時もあります。天気の良い日は鹿児島県と論島や沖永良部島を眺望できます。また沖縄は世界に誇るべき伝統芸能があります。琉球舞踊、組踊、エイサー等は、昔から多くの人々に愛されてきた誇るべき文化です。

和の尊さ大切さを胸に刻み、誰もが平和で、心豊かに暮らせる日が一日も早く戻ってきますように願わざるを得ません。

最後になりましたが、この4月29日、令和4年度の叙勲において、瑞宝双光章（児童福祉功労）を受章の榮譽に浴しましたところ、多くの皆様から「丁寧なる祝詞お祝いをいただきました。誠にありがとうございます。今回の受章は私自身というより法人を代表していただいたものと考えております。今後も社会へのご恩返しのために些かなりとも努力を続ける心算です。」

社会福祉法人都島友の会は100周年に向けて、地域の皆様とともに歩んでまいります。
7月30日（土）には帝国ホテルで、職員、地域関係者の皆様へ感謝を申し上げたく、「お祝いと感謝のつどい」を開催、誠に身に余ることでありますが私も、ご相伴に与らせていただきます。

地域に愛され、必要とされる社会福祉法人として、職員一同より一層力を入れてまいります。これからも温かいご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



描く 未来

広い園庭・保育室 を活かして!

2部制で行った運動会

子どもたちが毎日を楽しくのびのびと過ごせるように、
コロナ禍の中でもさまざまな工夫を凝らして頑張ってきました。



保護者の声

・事前にくじ引きをするので並ばなくても順番に入れることが良かった。
・十分に間隔をあけてゆったりと見ることができ良かった。
・2部制の開催のため、子どもの姿を見つけやすく撮影もしやすかった。
・子どもたちの待ち時間も短くて良かった。



実は職員がカメラを
回し撮影、編集をしました!



遊ぶ際は充分な間隔を空け、各机に様々なコーナーや玩具を準備して、遊びました。
音楽活動・運動会・発表会などの取り組みも、少人数ずつ各コーナーや保育室に分かれて行うなど、広い園庭や保育室を充分に生かし過ごしました。



都島児童センターではこの3年間、感染予防を行いながら、教育・保育をどのように行っていくかを何度も話し合いました。
今までの教育・保育方針を基に、日々対策を練りながら、新しい形、新しい教育・保育を取り入れ、子どもたちが毎日を楽しくのびのびと過ごせるように、園全体で統一した意識を持ち取り組んできました。限られた状況の中でもさまざまな工夫を凝らし、楽しい行事や日々の教育・保育を、職員や保護者の方々、地域の人たちの協力のもと、一丸となり進めていくことができました。

子どもたちの「未来を生き抜く力」を育てる

教育 | 保育を!

この3年間、どんな状況の中でも全力で楽しみ、力を発揮する子どもたちの姿、その力を改めて感じる事ができたこと、そして経験年数には関係なくより良い意見、発想をそれぞれが発信し、それを取り入れ、その時代にあった教育・保育方法を知り、きつかけになったことなど得られたものもたくさんありました。
それらを得た経験を活かし、今後も子どもたちの自発性を伸ばしながら、職員も一緒になって笑顔が溢れる教育・保育を行っていきたいと思います。

発表会



保護者の声

・DVDになったことで、子どもの普段の自然な姿を見る事ができた。
・何度も繰り返し見る事ができるので良かった。

4・5歳児は感染対策を十分に行い、人数を制限し開催しました。
全国的に感染が拡大していた際は動画撮影を行いDVDとして保護者に配布するなど柔軟に対応しながら行いました。

給食の様子



給食がカレーの日にカレーナが来てくれたよ!

小さな声で「いただきます!」

感染対策のためこの数年間、乳児期より黙食を進めていき、今では子どもたちも習慣づいてきました。黙食を行うことで食事のマナーなどもより意識することができました。
黙食を実施する中でも給食室の調理員さんがサンタクロースの衣装でプレゼントを届けに来てくれたり、季節に合わせた音楽を流したり食材や郷土料理の説明なども行い、食事に楽しみを感じられるようにしています。

十人十色の職員

を生かして!



少しでも子どもたちの様子をお伝えできればと、ホームページの更新回数が増やし、職員が作った動画や写真掲載は年間100件以上!保護者の方々からは「園での生活がわかり嬉しい!」「動画で成長もわかり、癒されタイムです!」と嬉しいお言葉もいただきました!

園内の様子

をつぶさに届ける!

年長児のお泊り保育の形を変え、夕方まで友だちと一緒に過ごしました。
子どもたちが各コーナーあそびを考え、お店屋さん役も行ったゲームコーナーや最近流行しているゲームランピングをテーマにした内容など学年カラーを存分に出した忘れられない思い出となりました。

みんなで作り上げたスペシャル DAY

先生たちも一緒にHandClapダンスで大盛り上がり!



テントも完成!

職員のアイデア満載!

After

夏フェスへ...



♪ 様々なゲームあそびに
挑戦!

友だちと

協力

絆を深める

最高の思い出づくり



謎解きスタート! チームで考え、
意見を出し合いながら、答えを見
つけます!



いいとこ
めがねで
発見!



で
き
な
い
で
は
な
く

お泊り保育の
ねらい

で
き
る
!!!

新型コロナウイルス感染症拡大で私たちの生活は一変。
当たり前のことが当たり前でなくなつたことに、息苦し
さを感じていましたが、その分、『感謝』だったり、『人
と人との繋がり大切さ』を感じる事ができました。
どんな時も『ピンチをチャンスに!』と前向きに頑張っ
てこれたのは、子どもたちの笑顔、保護者の皆様の「い
つもありがとう」の言葉があったから...。
これからも職員一致団結しながら、子どもたちのため
に、今私たちができることを全力で頑張っています!

Before

年長児ビックイベント!
お泊り保育

新型コロナウイルス感染症拡大で中止となつた年
長組のビックイベントお泊り保育。しかし、「子ど
もたちと楽しい思い出をつくりたい!」という職
員の思いもあり、近年は「夏フェス」として開催!

- ☆友だちと協力することで、協調性を身につける
- ☆友だちや保育者との絆を深める
- ☆友だちや保育者と最高の思い出をつくる

changeでも
見事、達成!

お泊り保育は平日に行ってしま
したが、夏フェスは土曜日に開催!
いつも自分たちが過ごしている友
渚児童センターが特別な空間になる
ことに、子どもたちのワクワクが止
まらない様子♡保育をしている中だ
とお泊り保育に参加できる職員が限
られますが、土曜日に行くことで、
職員みんなで行事を盛り上げること
ができました!

心と心が通じ合う保育を!

マスクで表情が隠れてしまう中、どう子どもたちに気持ちを伝えたら良いか、
様々なことを心掛けてきました。でもそれはマスクをしている、していないに
関わらず、保育の中でとても大切なことだと改めて学びました。

目の表情や視線



目の表情は柔らかく、一人ひとりに
目を配り、「見てるよ」と安心を伝え
られるように!

声のトーン+しぐさや動き

声のトーンや大きさに変化を。また、
しぐさや動きで子どもにも気持ちが伝わ
りやすくなり、子ども自身も表現豊かに!



姿勢

子どもの目線の高さに合わせ、
表情が見えやすいように!



利用者の方との
ふれあひも

丈夫な身体づくり

ひまわりの郷

子どもたちの館内放送を合図に、体操や園内サーキットが始まります。職員も体操をすることで健康管理や運動不足解消、腰痛予防にも繋がるよう、園全体で取り組んでいます。体育活動を通して、心も体も成長できるような活動をこれから暑い夏も到来しますが、熱中症等に気を付け、水分補給をしっかりと摂りながら、体力向上に向け取り組んでいきます。



ひまわりの郷と
ひがみや児童センターの園庭をランニング

思いやりの心



ここを走っています！



今日は〇月〇日
〇曜日です
今日はミックス
ジュース体操を
します！



サーキットのコース内に
跳び箱を設定



手足を伸ばして体操！！

友だちとの対話

諦めない気持ち
考える力
キーワードは

『体育活動』を通じての 健やかな成長

園生活、集大成となる1年。運動会や発表会の行事を通して、同じ目標に向かって取り組むことや、相手を思いやる気持ち、達成感を感じられるような活動を行ってまいります。たくさんの発見や、体験が子どもたちを待っています！



5歳児 未来に向かって
大きく翔け



3歳児 みぎてとひだりて
みんなで合わせて大きな輪

好奇心旺盛な子どもたち。自分のことは自分でしようとし、その気持ちを受け止め自信に繋がっていききたいです。「やってみよう！」と思う気持ちを出せるように意欲的な声かけをし、様々な事に興味を持てる環境をつくってまいります。

2歳児 一人ひとりが
一番星



自我が芽生え、イヤイヤ期に入！「〇〇したい」「〇〇イヤー」などの気持ちを丁寧に受け止めます。言葉で代弁し、やりとりをする中で友だちや保育教諭など人に関わる楽しさを伝えていきます。遊びを通して様々な経験をし、気持ちを満たしていきけるよう環境を整えていきます。

1歳児 いつもニッコリ
キラキラ笑顔

安全な環境でのびのびと過ごせるように環境を整え、生理的欲求を満たせるようにしていきます。成長していく過程を保護者の方と共有しながら、大切なお子様を安心して預けていただけるようになります。



0歳児 小さなつぼみを
咲かせよう

まだまだ油断できない状況が続いていますが、少しずつコロナ禍前の日常を取り戻していきたいと心から願っています。0〜5歳は子どもたちにとって心身共に成長する大切な時期。私たちは親切、丁寧な教育・保育を提供し、これからの未来を生きていく子どもたちの成長を守っていきたく思います。そこで、ひがみや児童センターの学年テーマをご紹介します。目指したい教育・保育や、いつも心がけている事を掲載します。

4歳児 やさしさの花
思いやりの花を育てよう

様々な活動を通して友だちとの関係を深め、自分の思い、相手の気持ちを聞くことができるよう保育教諭と一緒に1年間過ごしていきたいと思えます。

ひがみや児童センターと都島第二乳児保育センターから進級して一緒にいる3歳児クラス。たくさんの方々と関わり、手を取り合いながら、自分の気持ちを伝え、相手の気持ちに気づけるような保育を心がけてまいります。



うわあ、すごい!

いい匂い!

おいしい!

とげがチクチクする!

ジュウジュウ焼いてる音がする!



感動する心

五感で楽しむ

「赤くなってきた!」、
「そろそろ収穫できる?」
気づき、考える力

虫を集めて観察したり、石ころを集めて数えたり。転んだら痛いことを経験し、「大丈夫?」と優しくされることで自分も他人を思いやるようになる。大人にとっては一見ただのあそびに思えるようなことが、乳幼児期の大切な経験で、就学するまでに身につけてほしい力の基礎となります。



「風が気持ちいいね」

「そうだね」

食を通しての経験が子どもの情操を豊かに育みます。
「食」は私たちの生活においてもとても身近なものです。子どもたちに心身と知を育んでいく「食」の経験を大切にして欲しいと考えます。豊かな食の体験を積み重ねていくことにより、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本となる「食を営む力」が培われます。



大きいスイカ、
見つけた!



「こいのぼり泳いでるね」

大切な仲間と楽しい気持ちを共有できる園庭

自分で育てたという愛着

地域の方との触れ合い

園庭の自然から学ぶ教育・保育



仮設のころからお世話になっている「師匠」



ねえねえ師匠、これもう食べられる?

春には桜が見事な育ち、季節の野菜などができる園庭。都島友の会 91周年を迎えたこれからも、身近に自然と触れ合える環境を通し、子どもの育ちを大切に、職員力を合わせて教育・保育を進めていきたいと考えています。



中野地域のしょうわ会の方からジャガイモ掘りに招待していただきました。



「おはようございます」
「よろしくお願ひします」

幼保連携型 認定こども園 成育児童センター

感染症の状況を見てお迎えの時間に保護者の方には園内に入っただけできるようになりました。

保護者をつながる



令和4年度 保護者会会長

「これまでコロナ禍で制限されいろいろな事を開催するのが難しかったです。先生方や保護者会が主となり、今年度はいろいろな行事ができると思います。」

令和4年7月3日成育地域活動協議会主催

Seikku 文化祭

5歳児が和太鼓「ソーラン節」を披露しました



5歳児が近隣を掃除活動 クリーンアップ作戦



地域をつながる

令和3年度 コミュニティホール成育大ホールでの卒園式



町会長さんとの交流

園隣にあるコミュニティホール成育は開園当初から地域の方々のご厚意で子どもたちが大好きな「遊び場」として親しませていただいています。



体育活動参観の様子

令和2年度 大阪市立蒲生中学校での運動会



令和2年度からは行事のたびに感染対策に頭を抱えて悩んでしまっこともありました。少しでも密を避けるために運動会は蒲生中学校の体育館から校庭へ、卒園式はコミュニティホール成育の大ホールで開催となりました。

子どもたちの大切な成長はいつも人や地域と共にありました。クリーンアップ作戦やお祭りには年長児が参加、力を発揮しています。地域に育まれ成長する子どもたち…。地域の方々への感謝と共に、これからもいっそう素敵な関係を築いていきたいと思ひます。

輝く場所であるために

一人ひとりがキラキラ



職員同士の チーム力



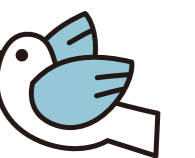
今年度は92名の園児と25名の職員が毎日ぎやかに過ごしています。「安心・安全」な日常の教育・保育の提供と並行して感染症防止対策などにも日々取り組んでいます。特に新型コロナウイルス感染症対策においては職員間の情報共有と安全管理に努めてきました。職員間で何度も話し合う中で意見が食い違うこともありました。相手の意見を聞き入れることで生まれる信頼感、年齢や立場関係なく意見を言える安心感。お互いを認め合える関係づくりの中で「チーム力」が育まれてきました。

お互いを認め合える関係づくり

つどいの広場 フレンドリーせいいく

当園が運営する子育て中の親子が集い交流する場所です。気軽にお立ち寄りください。

京阪電車「野江駅」徒歩1分
大阪市城東区成育2-2-21 ナニワランド野江1階



都島乳児保育センター

発表会は12月に

例年、発表会は1月ですが、コロナウイルスの状況を考え、保護者の方に実際に子どもたちの姿を見てもらいたく、急遽、12月に変更しました。乳児の発表会では「何をやるのかな?」「何ができるのかな?」と思う方もいますが、子どもたちの好きなあそびや日々の活動を取り入れ、物語のように子どもたちが楽しめるように成長に合わせて取り組んでいます。予行や本番ではいつもと違う雰囲気緊張している子どももいればお母さんやお父さんの姿が見えて、嬉しくて手を振って満面の笑顔を見せてくれる子も。

今年も子どもたちが楽しめる行事や保育を考えています。



私たちが大切にしている「ていねいな保育」とは

大切な我が子を初めて保育園へ預けることは不安がいっぱいだと思います。都島乳児保育センターは日本で初めて開設された歴史ある乳児保育専門施設。長い歴史の中で培ってきた保育の「基本」を大切に、保護者の不安や悩み、子どもの気持ちに寄り添った保育をすること。そして保護者にとっての子育てのパートナーとなり、子どもたちにとって、『もう一つのお家』となって「育ち」を支えていくことが私たちの役割であり、「ていねいな保育」だと考えています。

離乳食見学

例年、新入園児を対象に行ってきた「離乳食試食会」。実際に提供している離乳食を保護者同士で試食し合い、味わいや食感をじっくり味わっていただき、子どもの気持ちを感じられるような場を作っていました。しかし新型コロナウイルス感染症の流行で開催は難しく、その代わりとして入園児が初めて給食(離乳食)を食べる様子や離乳食の食材を見てもらうことにしました。実際に見て、少し味見をしてもらう事で、「この大きさだったら食べやすい」「この調理方法を家でやってみよう」などの声が聞かれます。また来園した保護者の方や園や家庭での様子を伝えあい、少しでも安心してもらえる機会を作っています。



園内で夏まつり

コロナウイルス禍の中、いろいろな行事が見直され、中止になりました。毎年初夏に都島児童センターと合同で行ってきた恒例の「こども縁日」(夏まつり)も残念ながら「昨年と昨年と開催は中止。職員全体で良い案がないかを話し合い、園内で「夏まつり」を開催することに。職員はハッピー、子どもたちは基平を着て夏まつりモード全開! 屋台ごっこ、巨大なトランプポリン、ヨーヨー釣りなど、様々なアイデアを持ち寄り、園内での夏まつりを楽しみました。



作品をプレゼント

都島乳児保育センターでは子どもたちの成長や季節に合わせ、様々な作品づくりを楽しんでいます。「こいのぼり」「父母へのプレゼント」「勤労感謝」「敬老カード」…。

作品作りはいろんな技法や道具を使って完成させることで子どもたちが達成感を持ち、またその作品を持ち帰って、保護者の方に「こんな事ができるようになったんだ」と我が子の成長を感じてもらうことができます。また地域の方には「勤労感謝」の作品をプレゼント、地域交流の機会としています。



安心して子育てできるように。
私たちをもっと
知ってもらいたいと
考えています。

施設見学は随時実施をしています。なかにはまだ妊娠中の方も来られます。見学し、実際に施設内での子どもたちの暮らしぶりを見てもらいます。おしめの替え方や給食の風景、食材や離乳食…。初めての子育てで不安に思っている事もどうか気軽に相談ください。

子どもたちが安心して楽しく過ごせる『もう一つのお家』になるように、保護者にとっての子育てのパートナーになれるように、これからももっとも「ていねいな保育」を目指していきます。

都島第二乳児保育センター

地域子育て支援拠点事業



毎月の講習会やブックスタート、月齢が同じくらいの赤ちゃんが遊べる時間など、ゆっくりおしゃべりできる場を設けています。
完全入れ替え制にし、人数制限や換気・消毒の時間を十分にとり、安心して利用していただけるように取り組んでいます。



毎月のカリキュラムを共に作成し、スムーズに進級できるように日々の交流・合同行事を通し情報交換を行い、同じ方向性での保育を心掛けています。

**大丈夫!!
安心して下さい**
3歳児になるとひがみや児童センターへ進級します。

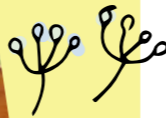


地域の方も応援し隊!

都島第二乳児保育センターでは地域支援の一環として『一時預かり事業 すくすく』『地域子育て支援拠点事業のびのび』を行っています。子育て中の仲間づくりのサポートや育児情報の提供など地域の皆さんが子育てを楽しめるように少しでも不安が和らぐようにと考えています。様々な「育児の悩み」に寄り添いながら、子どもたちはもちろん保護者の方の笑顔も増えるように取り組んでいきたいと思っています。



一時預かり事業は保護者の方の仕事・育児軽減等で利用する事業です。『すくすく組』は、異年齢児のお友だちが少人数で過ごし、保育園ならではの経験を通じ、成長を感じられる瞬間を大切にしています。



姉妹園ひがみや児童センターと

二園のつながり

2歳児までの保育園...
「その後の進級は?」
「探さないといけない!」



乳児保育のエキスパートとして...

都島第二乳児保育センターでは0歳児保育が復活し、3年目を迎えました。姉妹園の都島乳児保育センターの0歳児保育をベースにしながら、子育て中の職員の意見などを取り入れ、当園でしか味わうことの出来ない保育を目指しています。
乳児期は、人としての大切な土台作りの時期です。子どもたちが安心して過ごせるような環境作り、そして家庭的な雰囲気を大切に日々、保育を行っています。クラスの垣根なく職員みんなで子どもたちの成長を、保護者の方々と一緒に見守り喜びそして悩み...子どもだけでなく保護者の方々にも寄り添う保育を心掛けています。
乳児保育専門施設として、これからも子ども・保護者の方々の一番の応援隊でありたいと考えています。



毎日が『初めて』の瞬間
小さな成長・大きな喜びがいっぱい!



子どもの命を守るために...
看護師に指導してもらいます。

心肺蘇生法



目と目を合わせて...
大切なスキンシップの時間



離乳食研修



実際に体験し、感じたことを日々の保育に繋げていきます。

今までの乳児保育で培ってきた
専門性をより高めて

職員間で話し合い、勉強し合い子どもたちと保護者の方が安心安全に過ごせる環境づくりに日々努めています。

★進化し続ける・つながろうプロジェクト★

コロナ禍で感染拡大防止対策のため、保護者の方が園内に入れないことで少しでも園の様子、子どもたちの様子を発信し親子で楽しんでほしいという思いから始まった友乳の動画撮影。

TEAMWORK NETWORK

Let's be together!!

★保護者とのつながり★
～コミュニケーションの場～

0歳児から2歳児までの子どもたちが過ごすアットホームな園。幅広い年齢層の職員が、子どもたちの大切な乳児期に日々リーダーシップ、フォロアーシップを色々な場面で発揮し『チーム力』を高め合いながら子どもたちが健やかに成長していけるように丁寧な保育に取り組んでいます。



現在

過去

動画撮影には多くの人数と時間が必要だった。



密を避け、玄関先での短い時間がコミュニケーションの場になったが…

現在



保護者の方から園周辺近隣公園の危険箇所の情報提供を頂き、保護者の方にも周知し、注意喚起を行っています。

大川沿いの柵は扶まるから危険だよ!!



前は大変だったんですね

ずっぱーい

「もっと手軽に子どもたちの姿をたくさんHPにUPしてください!」と令和2年度に保護者会からiPodを2台購入していただきました♡

ポフモ…

★病後児ルームひまわり★
～地域とのネットワーク～

受け入れ場所が変わってどんな気づきがあった??
★園内に保護者の方が入っていた時は子どもの姿を直に感じてもらっていた。園の様子や子どもも姿をみてもらった。
★消毒、手洗いなど衛生面をより強化するようになった。

大阪市の委託事業として運営され、医師、看護師、保育士が連携して「病後回復期」のお子さまを看護・保育します。ここ数年、病後児研修や説明会等の参加により地域の病院とネットワークが強化され、新しい情報を常に共有しています。



コロナだけが病気ではありません! 受け入れ状況は日々変わります。いつでも気軽にご連絡ください!
Tel.06-6929-0720

友乳 HP



もっと知りたい方はこちらにアクセス!!

これからも、『子どもたちのステキな瞬間』を
お届けできる動画配信を目指していきます!



沖縄 渡保育園



文化継承

沖縄文化を子どもたちに伝承するため、普段の保育からエイサーに触れる機会をもっています。乳児の頃から保育士手作りのパーランクーでリズムを楽しみ、年長になると、棒術・ぬんちやく・琉舞・旗頭などに挑戦。楽しさ喜びの中から郷土の伝統文化に親しみ、受け継いでいく尊さを伝えていきます。



勉強会



4歳で鉛筆の持ち方から書き方を練習し、5歳からは勉強会を始めます。姿勢正しく椅子に座る事からスタート。文字や数字に興味を持ち、学習意識をもてるよう、遊びや指導を取り入れています。

体育指導



運動機能の発達を促し、「できた」という達成感から経験を重ねることで、自信へつながっていきます。

楽器指導



野菜の生長に触れ、食に興味ももてるよう4、5歳児から菜園作りに挑戦。苗木を植え、毎日の水やりを通して野菜の生長に日々感動。収穫の際には野菜に直接触れ、「きゅうりはチクチクするね」「なすはつるつる」と自然と触れながら子どもたちは発見していきます。

菜園作り



乳児保育

大人との関わりが最も重要な時期。乳児が泣いているときは、顔をのぞき込んで優しく言葉をかけたり、抱き上げ心地よく揺らしたり、不快な気持ちや欲求を受けとめて応えてあげ、安心して過ごせる環境づくりを心がけています。

「今」を大切に、一つひとつの「あたりまえ」に感謝！

子どもに秘められた無限の可能性を引き出す保育を！

こゝからもー。

コロナ禍になって改めて気づかされた事がたくさんありました。非日常が2年も経てば今では日常に変わってきています。「今」を大切に、日々埋もれた「あたりまえ」一つひとつに感謝する事を忘れず、『WEGOコロナ時代』に学んだことを糧とし、子どもたちと一緒に実りある時間を過ごし、これからも子どもに秘められた無限の可能性を引き出す保育を心がけていきます。

1972年5月15日に沖縄の施政権が日本に返還され、今年50周年を迎えました。復帰に至るまでに27年もの月日がかかり、その間、通貨はドルの使用、本土へいく為には特別パスポートが必要だったと聞いています。本土復帰を受けて絶対に切り離せないものがあります。それは太平洋戦争で沖縄が唯一の地上戦となったこと、そしてその中で数多くの人が亡くなったことです。家や学校、病院などが破壊され、行き場をなくした方も大勢いらっしゃいます。大きな犠牲、敗戦の後、アメリカに統治されてなお復帰までに尽力された方々があつて、今の沖縄があることを改めて思いました。今を当たり前と思わない事。今の沖縄に生きる事へ感謝の気持ち忘れず、みんなで協力し合つて沖縄のさらなる発展に努めていく事の大切さを改めて思っています。

金城 達也

沖縄本土復帰 50 年に寄せて

小橋川 由苗

1945年に占領されてから、1972年に返還されるまでの27年間、アメリカの統治下にあった沖縄。住民たちの生活も本土とは異なっていました。たとえば、切手は琉球郵便仕様で額面は5セント、交通ルールもアメリカ流で左ハンドル、右側走行が基本で、これは沖縄返還後もすぐに切り替えることが難しく、返還から6年経った1978年に変更されました。沖縄返還は実現したものの今も課題は多く残されており、現在も米軍専用施設面積の約70%が沖縄県に集中していること、沖縄本島の14.5%が基地に占められていること、家族から返還されるまで暮らしてはアメリカ流で通貨はドル、右側走行だったと聞いたことはありませんが、今回、新聞やメディアの報道で返還されるまでの経緯や日米間で「密約」が結ばれていたことなど、自分が知らない事も数多く知りました。

今回この記事を書く中で沖縄の事を沢山考えさせられました。戦争をくぐり抜けて生き残った人たちは沖縄戦の遺族なわけですね。「命どう宝」という昔から沖縄の中でも大切にしていた言葉があります。「命よりも大切なものはない」という思い、それが自分の心の芯になったと改めて感じます。

「コロナ禍の中で気づいたこと」

コロナ禍を経験する中でさまざまな影響を受けました。感染予防が重視され、ソーシャルディスタンス、移動の制限、外出の自粛など、今まで出来ていたことができなくなり、行動も大きく変更しなければならなくなりました。

毎朝の受け入れ時には、体温チェックと視診を行い、体調面がすぐれない子は保育中もこまめに（15分〜30分おき）検温を行い、発熱（37.5度以上）が見られた時には保護者の方にお迎えをお願いしました。その際には、園の感染対策をよく理解していただき、快く対応していただくなど、園と保護者の協力体制を築き、とても感謝しています。

マスク着用で目元しか見えない分、保育者は声のトーンや言葉かけに注意し、また目元（笑顔）や優しい表情をすることで、子どもにも保育士の想いが伝わるように工夫、子どもたちが安心して過ごせるようになりました。

園内で感染者がでてしまい自宅待機となった時も、子どもたちが家庭内で過ごす時間が多くなったことで、親子のコミュニケーション（スキンシップ）の深まりができて、貴重な時間を過ごせたとの声もいただきました。

いま考える保育の課題

日々の保育の中で、「集団生活」という意識から全体をまとめることへの気持ちやともすれば強くなり、子ども一人ひとりの個性や成長（発達）に合わせてのこまやかな配慮、関わりへの反省点が多いと感じています。

言葉かけは優しく、丁寧に。一人ひとりの個性を認め、主体的に取り組めるようにサポートし、集団での活動で全体をまとめることが必要な時には、その場その場に合わせた対応（大きな声をだすのではなく、保育技術を使い子どもたちを集中）を心がけたいと思います。

これまであたり前にできた事（コロナ前）が再びできるように、園全体で考えていきたいです。（運動会・発表会などの行事の取り組みなど）



コロナ禍のためクラスだけのお誕生会



これからの保育の目標と夢

- ・英語・ピアノ・体育・絵画・琉舞太鼓などの外部指導を導入し子どもたちの好奇心や感性を刺激し、子どもたちの強くしなやかな心身の育ちを育みたいと思っています。また家庭では早寝早起き朝ごはんの習慣づけをし、子どもたちが毎日元気に登園できる環境づくりをお願いいたします。
- ・子どもたちの体調の変化や成長を感じとれるよう日々アンテナをはり職員間で連携し共有できるようにします。
- ・子どもたち主体での活動ができるように、職員みんなで相談を重ね子どもたちが「保育園大好き・お友だちや先生も大好き！」と思えるような保育園にしていきたいです。
- ・コロナ禍の中、保護者との関わりもあまりとれず、コミュニケーションを取りづらい状況でしたが、ホームページやDVDで保育園での子ども

たちの姿や行事などの様子を伝えました。今後保護者がどんなことに悩んでいるのかどんな不安を抱えているか、心を打ち解けて話せるような保護者との良好な関係を築いていきます。

一時保育や保育サロン・病後児保育などの子育て支援ができるよう地域貢献にも力を注いでいきたいと思っています。



これからも保育士一人ひとりが保育技術を磨き、日々の保育の中で発揮できるように、試行錯誤しながらも職員が一丸となり、子どもたちが安心して過ごせる保育園、子どもたちの健やかな成長を保護者と共に見守っていききたいと思っています。

沖縄 松島保育園



戦後約27年間アメリカの統治下にあった沖縄県が日本に返還され、今年で50年の節目を迎えました。本土復帰前後では生活環境が大きく変わりました。復帰前には他府県に行く際にはパスポートが必要だったり、電話は国際電話だったり、アメリカと同じことが多かったことを知りました。復帰しても日本の米軍専用施設の約7割が沖縄に集中しており、現在でも様々な問題が起きています。実際に大学の建物に訓練中の米軍ヘリが墜落したり、発がん性のある危険な消火剤が地下水や生活用水など、または近くの小学校や保育園、住宅街等にも消火剤の泡が降ったということが、大きな問題となつていきます。

しかし多くの問題がある中でも、沖縄の伝統文化に復帰後変化があったことも知ることが出来ました。多様な要素が混ざり合うチャンプルー文化の沖縄を代表する芸能として、エイサーがあります。復帰前は手踊りのみでしたが復帰後には太鼓を使うようになり、それ以降創作エイサーなどが誕生しています。またウチナーグチは、独立言語として沖縄特有の言葉です。沖縄にある都島友の会の2か園では、琉舞や方言劇、エイサー、旗頭などの沖縄独自の伝統芸能を取り組んでいます。私たちの祖先が長い間苦勞しながらも大切にしてきた沖縄の歴史や伝統文化を子どもたちに継承していき、保育の中でこれからも様々なことに取り組んでいきたいと思っています。

山下 詩織

沖縄本土復帰50年に寄せて

比嘉 あゆみ

今年沖縄が本土復帰50周年を迎えました。復帰前後の混乱の中、先人たちが沖縄の復興を目指し築き上げた歴史を振り返ると、身の引き締まる思いがします。

子どもたちを取り巻く環境、保育、教育の在り方は、変化してきたと思いますが、子どもたちの成長を願い、大切に思う気持ちはいつの時代も変わらず抱き続けてきたものだと思います。

保育士としては、まだまだ足りないことばかりですが、先輩の先生方を見習い、自分の目指す保育士像に近づけるよう、沖縄の未来を担う子どもたちの為に、保育の現場でできることを精一杯励みたいと思っています。

こども発達サポートステーション それいゆ

放課後等デイサービス

自分らしく生きていけるように...
卒園した保護者の方から子どもたちが就学してからも支援を続けほしいとの声から始まった放課後等デイサービス。学校が終わってから一緒に学習したり、友だちとの関わり方について学んだり、その子らしい歩幅で一歩ずつできることを積み重ねる。子どもの気持ちに寄り添い、時に気持ちを発散したり、悩みを聞いたり、みんなと楽しい経験をすることで、ご家族の皆さんと一緒に、子どもたちが自分らしく、そして力強く生きていける力を育める、そんな力になりたいと思っています。



ひとり一人を大切に、子どもの育つ力を信じて
それいゆは、一人ひとりを大切に、それぞれの個性にあった方法をみつけながら、その良さを伸ばし、生きづらさを解消していく場所です。子どもからの発信・サインを見逃さず、丁寧に関わる姿勢を持つこと。そして出来た事を保護者と共に喜び、しっかりと認めながら、本人のペースで成長出来るよう支援していきます。

児童デイサービスでは

自分らしく、その人らしく。
子どもの育つ力を信じて、未来へつなぐ。

● 保育園や幼稚園に通われている発達に遅れのある未就学児対象
● 保育園とは異なる少人数グループの環境の中で、子どもたちの可能性を最大限に生かせるよう、丁寧に関わり、保育園・デイサービス・家庭の3つが同じ方向性で支援します



児童発達支援



それいゆの夢

みんな違って、みんないい！
育ち方の多様性をリスペクトする社会へ。

社会はさまざまな価値観、いろいろな個性、特徴をもった人が集まって成り立っています。大人と子ども、高齢者と若者にも、価値観やライフスタイルによっても多様性があります。もちろん育ち方もまたまちまちです。一人ひとりがお互いの違いを認め、それぞれ違った個性や特徴を尊重する。できることがあれば喜び合い、できないところを補いあう。そして人と人が支え合い、つながって生きていけるような多様性のある社会になっていけるように、私たちはそんな夢に向けて子どもたちと共に歩んでいきたいと考えています。

詩人金子みすゞに「私と鳥と小鳥と鈴と」という詩があります。
私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。
(金子みすゞ、「私と鳥と小鳥と鈴と」)



つぎはこの色にしよう

それいゆでは

ボールの感触おもしろいよ



都島友の会 各保育園

幼稚園 小学校 中学校 支援学校

電話相談・見学

都島区 保健福祉センター

子ども相談センター

他事業所 デイサービス

ひまわり ネット

学童

それぞれのライフサイクルに合わせて、様々な機関と繋がりがあいながら大きくなっていくよ

つなげる支援、広げる支援を！
子どもたちが関わる場所は成長と共に保育園、小学校、支援学校などにつながっていきます。それいゆはそれぞれの関係機関と連携をとり、相談支援や保育所等訪問支援等、子どもたちが集団の中で安心して生活することができるよう支援していきます。

コロナ禍でも
子どもたちの活動を。

しかし、「コロナ禍」によって子どもたちの生活も環境も大きく変化しました。それでも子どもたちの活動を守るために都島児童館は様々な工夫をしていく必要がありました。職員はそれぞれの活動一つ一つに対して感染リスクの吟味を行い、その中で少しずつ活動を広げるためにたくさんの方と対峙しながらも、子どもたちの活動を大切にできる方法を模索してきました。

今後も地道にのんびりと。

今後どう二転三転するかが分からない状況ではありますがやはり最優先は子どもたち。「子どもたちの最善の利益」を軸を置きながらどのように児童館も活動を発展させていくことができるのか？子どもたちの宿題のように職員に課せられ続けることだと思えます。しかし、宿題と同じくしんどいだけのことではなく、児童館がさらに子どもたちにとって「安心して楽しめる場」であり続けること、より一人ひとりに対して寄り添い関わることでできる場所に成長するためのものとして課せられるものであると前向きに捉えていきたいですね。

そのためにもやはり大切なのは丁寧に取り組み続けることです。今後も職員一同焦らず頑張りますので、都島友の会が91年を迎える中、改めて応援していただけると幸いです。

「子どもの最善の利益」って？

「子どもにとって最もよい関りや活動は何か？」というもので、子ども一人ひとりにとっての安全や安心、また幸福といった、子どもの生活の中でその子を中心に考えた際に何が今必要で、子どもが何を必要としているのかを考えることです。それは、大人の目線で「こうあるべきだ！」ではなく、子ども一人ひとりに合わせたペースや、その子の想いも汲み取った上での活動を考えるということが大切であると職員は考えています。そして、日々の中で子どもたちが自分たちで物事を考え、行動ができるように、職員たちは子どもたちを見守りながら活動をしています。

日々、児童館では「子どもの最善の利益の尊重」を活動の大切な軸としています。そのうえで、子どもの思い、子どもの権利を大切に、子どもたちが生活を自分たちのものとして主体的に活動できるよう見守っています。

私たちは様々な視点から子どもたちの生活を捉え、子どもたち一人ひとりを大切にしながら丁寧な支援を心がけています。

一人ひとり、

具体例を紹介します！

環境

◎子どもの活動をスムーズにするための環境を整えます

どんなものの配置なら、使いながら「みんな」が使いやすいのか？
片付けが苦手な子のしんどさも解消できるなどそれぞれが活動しやすいような環境整備を考えます。



一目でどこに何があるのかが分かりやすいようパンチングボードを活用するなどの工夫をしています。

取り組み方

◎「いまなら頑張れる！」

宿題を各々のペースでできるように

もちろん早めに終わらせることができるように声掛けをしていますが、時にはそれで調子が上がらなかつたりあそびを諦めることになってしまったり…

「公園から帰って来てから頑張ろうか！」などその子がやる気を出せるタイミングにも配慮します。



いまから宿題がんばるわん!

子どもたちと取り組みやすい環境を模索します!



子どもたち

子どもたちの児童館での生活



じゃ、調べてやってみようか!

これ作りたいねんけどできるかな?

おやつの種類は子どもたちのリクエストにも対応しています。

それぞれ取れる数は職員が決めて後は自由にチョイス。

関り

◎子どもたちの想いや活動の尊重

「いま、したいこと」ができるように

子どもたちの活動を否定せずに受け止めます。

「なんでもあり」ではありませんが、実現するためにどのようなサポートが必要なのかを大人と子どもで相談します。

また、相談が出来ることで子どもたちは自身の意思が実現することの実感につながります。

「無理やろなあ」ではなく「まずは相談してみる!」という関係づくりを大切にします。

選択する楽しさ

◎食べるおやつを選ぶ楽しさ、おやつは自分たちで選びます

その日、その時、その気分に合わせたおやつを選ぶことで子どもたちの栄養面の補給だけではなく活力の補給も。

「今日はこれにしよ〜!」とおやつ選びも子どものその時の気持ちを大切にしています。

選択する楽しさ

おやつ選びはやっぱり子どもたちにとって大切。そこでトングを使っておやつを取る、手でおやつを触らないようにお箸を用意するなどの工夫も。



今までは当たり前だった音読やリコーダーがこんなに悩ましいものとなるとは...

リコーダーの音色が聞こえるのも学童らしい。

環境

手指やつかったものを自分たちで消毒ができるように各活動スペースに消毒液を配置。

また、「使用済み」と「消毒済み」の文房具を子どもたちでも分けることができるように置く場所を分けるなどの工夫。



おもちゃの前にはまず消毒!

活動のタイミングや場所の使い方の工夫で不可能を可能に! 工夫ってやっぱり大事!

「ペン一つでも他人に配慮した使い方」「こうすれば次に使う人が分かりやすい」といった当たり前のこともかもしれませんが改めて気づき互いに考えることができるようになったかも。

関り

子どもたち企画の夏祭りなど大人数のイベントをするために二日間に分けたり、スペースを区切って密を避ける工夫を行いました。子どもたちのチャレンジする機会を大切に。

部屋ごとにゲームコーナーを複数設けるなどの発想もGOOD!



自分たちで企画書も書いています!

取り組み方

リコーダーの宿題は家庭によっては家に帰ってからでは難しい場合も。飛沫を押さえるためにパーテーションを活用しながら一人ずつ練習します。

どれもほしいからなやむなめ



お箸でスナック菓子もまた良いものですよ。

選ぶ楽しさそのままに。今では駄菓子屋さんの買い物気分。

一つ一つを大切に。

都島友の会 高齢者施設

都島友の会の高齢者施設は、特別養護老人ホームひまわりの郷、友渕地域在宅サービスステーションひまわり、訪問介護ひーぐるまの3施設があります。3施設は相互に連携し、力を合わせることで、地域の高齢者の方々が住み慣れた町で、安心して暮らせるお手伝いをしています。今年度からは3施設が一層緊密な連携を図るため、月に2回、法人理事長、本部事務局長、そして高齢者施設の各管理者が高齢者施設会議を開催、情報共有をはじめ、より質の高いサービス提供するための運営や人材確保、設備の拡充等、様々な意見やアイデアを出し合っています。

特別養護老人ホーム
ひまわりの郷



友渕地域在宅
サービスステーション
ひまわり



訪問介護
ひーぐるま

サービス付き高齢者向け住宅
あやなすの郷 (仮称)



新たな取り組みも！

新しい取り組みも始まっています。その一つがサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「あやなすの郷(仮称)」の建設。

「サービス付き高齢者向け住宅」とは高齢者のケアに詳しい生活相談員が常駐し「安否確認」や「生活相談」など様々な生活支援が受けられる住宅です。身体や心はまだ元気だけれど、自宅で一人暮らしをするのは不安といった高齢者の方が安心して自立した暮らしをすることが出来ます。

「特別養護老人ホームひまわりの郷」、「友渕地域在宅サービスステーションひまわり」、「訪問介護ひーぐるま」、そして「あやなすの郷」が連携して、都島区の高齢者福祉の拠点となるよう準備をすすめています。

特別養護老人ホーム ひまわりの郷

労働環境の改善



介護ロボット・ICTの活用

高齢者の自立支援や介護者の負担軽減に役立つロボット技術を応用した介護機器を導入。スマートフォンやパソコンによる介護記録の記入など省力化効率化を追求し、働きやすい職場づくりを目指しています。



利用者のため、介護者のため、地域のために。 誰もが快適に暮らせる環境にするために一。

介護の人材確保に向けた取り組み

平成27年度から比嘉正子地域貢献事業研修センターが開設した「介護職員初任者研修」を今年度から「特別養護老人ホームひまわりの郷」が引き継ぐことになりました。介護人材のすそ野を広げ、新たな介護の担い手を養成発掘し、高齢者施設へ就業してもらう足がかりに思っています。さらに実務者研修を開設し、介護福祉士資格取得、管理職や施設長といったマネジメント職へとつながるキャリアパスを構築、介護職に魅力とやりがいを感じ、将来設計が立てられる環境づくりをしていきたいと考えています。



外国人スタッフが イキイキと活躍できるために

ひまわりの郷ではフィリピンやベトナム、中国など多くの外国人スタッフが熱心に働いています。文化や習慣、言葉の壁など多くの障壁を越えてスタッフとして十二分に介護職の役割を果たしてくれています。私たちはこれからも多くの外国人スタッフと共にみんがイキイキと生きがいをもって働ける職場環境づくりに精励し、いつその努力を重ねていきます。



将来に向けて

～地域に開き、地域へ伝える～

今後、高齢者施設の新設数の減少、人材の不足等により、施設入所がいつそう難しい時代が来ると予測されます。そのため在宅介護を余儀なくされる高齢者も多くなると思っています。ひまわりの郷は介護福祉士が多く在籍、研修等を通して職員の知識や技術のスキルも上がっています。いわば介護のプロ集団です。今後在宅で介護をされるご家族向けに介護のノウハウや技術、例えば「排せつの介助」「ベッド⇄車椅子の移乗」「食事の介助」「着替えの介助」といった介護教室を催したり、介護予防のため施設で取り組んでいるいろいろな方策を伝えていくことも地域福祉を支えるために重要な役割だと考えています。



コロナ禍の生活も3年目を迎え、徐々に日常を取り戻しつつあるように思います。ひまわりでも中止が続いていた行事も徐々に復活し、ボランティアさんの受け入れも再開しています。デイサービスでは送迎や食事・入浴・排泄介助、レクリエーション、機能訓練など様々なサービスを提供しますが、やはり利用者に喜んでいただくためにはイベントや行事はかせないと思いました。

この春に行った「お花見ドライブ」では、この2年間、お花見自体をされなかつた方がほとんどで、車から見える桜がともきれいだと言った方もおられました。桜をバックに記念撮影をしました。その写真をお配りしたところとても反響が大きく、利用者だけでなく、ご家族にも喜んでいただけました。また、ご利用者に喜んでいただけるものといえば、毎年利用者さんのお誕生日にプレゼントをお渡ししています。昨年は、写真入りキーホルダー。今年も、マグネット付写真です。デイサービスご利用時のカバンにつけたり、杖につけたりと使い道はさまざまです。



誕生日プレゼントのキーホルダー

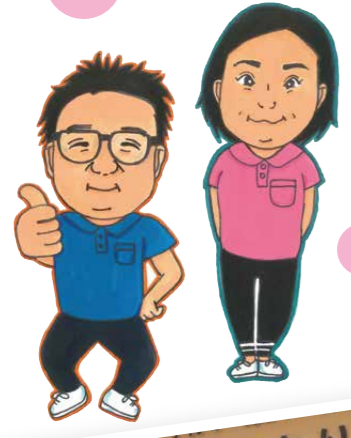
共感する気持ちが一人心を笑顔にする

高齢者のよりよい生活を支援するために

無我夢中でやってきた2年間でした。訪問介護は法人としては初めての事業、私自身も初めての管理者です。「信用を築いていきましょう」と出発しましたが、実際に信用を築くのは難しいと痛感したこともありましたが、言葉かけが間違っていないと信じて利用中止となったことも、連絡先の順番を間違えてのお叱りもありました。人生の先輩であるご利用者様は私たちの行動をよくご覧になっていきます。他人が自宅に入らせてもらうのですから少しでも不信感を持たれてしまうと挽回するチャンスはないのです。改めて「親切丁寧、わかりやすい」が大事だと感じました。利用者様に対して「親切丁寧、わかりやすい」とは何か？「身なりを整え、はきはきと挨拶をし、出来る事出来ないことの説明を丁寧に言い、しっかりとご利用者様と向き合う」ことだと思えます。0人の利用者から始まり、今では40名を超えるご利用者様との関わりを持つことが出来るようになりました。ようやくひーぐるまの信用が築けてきた証だと自信を持って言えるようになりました。「親切丁寧、わかりやすい」私たちはこの姿勢を今後も貫いてまいります。

訪問介護 ひーぐるま

スタッフ一同
これからも
頑張ります!!



訪問介護員 (ヘルパー) 大募集!!

初めての方でも安心。スタッフで協力し合い、助け合い、働きやすい環境ができるように工夫をしています。また法人内には、特別養護老人ホーム、デイサービスがありますので勤務場所の異動も可能です。

8時～19時の間の1時間からOK!
週1日～勤務OK! 日曜日お休み
身体介護 1650円～
生活援助 1150円～

連絡先
06-6921-7320



ひーぐるまの課題

共に働く仲間を大切に

ありがたいことにご利用者様からの訪問依頼の相談はあるのですが、働き手（訪問介護員）がいなく、その依頼をお断りするケースが増えてきました。ご縁があつて依頼を頂いているのに、それを受けることが出来ない、大変申し訳ないことです。私たちの課題は、いかにして一緒に働いていただける方を増やしていけるか、にかかっています。

一緒に働く仲間が安心できる、やりがいを持てる、そういった働きやすい環境を提供する。そのためには職員同士、つねにコミュニケーションを図り、安心してもらえる職場作りをしていきたいと考えています。

現在、日本では国民の4人に1人が65歳以上、さらに2035年には3人に1人、2060年には約2.5人に1人が65歳以上になると予想されています。超高齢化社会のなかで、私たちの仕事はますます重く大切な役割を担っていくこととなります。

さあ、一緒に都島にお住まいの方々の生活を支えていきましょう。

介護の仕事



この仕事の一番大切なもの、それは「想像すること」「共感すること」だと思います。お一人おひとりに寄り添い、よく見て、よくお話しすること。注意深く観察することで気付けることはとても多くあり、ご利用者一人ひとりに喜んでもらうためにできることが見えてきます。

相手が何に困っていて、何がしたいのか、どのような状態になりたいのか、何が喜ぶのか、想像をすることは「人」にしかできません。寄り添うケアは「人」にしかできません。私たちはお一人おひとりに共感し、共に笑顔になれるような介護や支援を目標に歩んでいきたいと思っています。



都島児童センター
主任 小倉 早織

主任昇進の話を受けた時は、正直不安な気持ちでいっぱいでした。「我が子の子育て」とも日々奮闘している中、都島友の会の主任が務まるのかという思いが頭の中を駆け巡っていました。主任業務は全く分らないことばかりで助けてもらうことがありますが、長年一緒に働いている「仲間」や「子どもたちの笑顔」にパワーをもらいながら力になれるよう頑張りたいと思っています。新型コロナウイルスの影響が保育業界にまだ降りかかっており、そのための制限もたくさんあります。そんな中でも子どもたちが楽しめることを一番に考え、子どもと一緒に職員も楽しむことができよう環境作りを心掛けていきたいです。また、日々子どもたちの成長を保護者の方と喜びながら微力ながらもお力になれたらと思っています。



都島児童センター
水上 恵理

初めての異動で不安な気持ちを吹き飛ばしてくれたのは「先生お名前が」と話しかけてくれた児童センターの子どもたちでした。どこに行っても変わらない子どもたちの笑顔にパワーをもらい、励まされた初日でした。同じ法人とはいえ、各園のカラーがあり『当たり前』にしていたことが（こういうやり方もあるのか...）と戸惑ったり、周りに助けてもらう毎日（しつかりしないと...）と、落ち込むこともありましたが、自分の中の『当たり前』を見つめ直し、教育保育を考える毎日新鮮で楽しく感じています。いまの助けてもらう立場から「頼りになる存在」へとなるよう信頼関係を築きたいと思っています。



友洲児童センター
山野 莉佳

私は友洲児童センターで4年勤め、友洲児童センター分園へ、そこから都島友洲乳児保育センターへと異動しました。近くの園でもあり、2園の繋がりが多くあつたため、身近に感じてはいましたが、やはり不安や緊張がありました。しかし、周りの職員はそんな私の気持ちも踏まえて、優しく丁寧に、分からないこともたくさん教えてくださり、助けていただきました。そしてまた、7年目になり友洲児童センターへ異動となりましたが、そこでも改めて人間関係の良さを感じられました。異動を経験していく中で、それぞれの園の良さを感じられたとともに、法人内で一緒に働いたり、助け合える仲間を増やせたことを嬉しく思います。



友洲児童センター
主任 中田 久美

慣れ親しんだ友洲児童センターを離れ、異動することで見えてきたこと、新たな発見、人との出会いや繋がりを感じながら、暑い夏を迎えました。新年度が始まり、ある職員が「林先生がここ（ひがみや児童センター）にいる事に違和感ないですね」と言ってくれ、嬉しく思いました。ひがみや児童センターの園長も一つひとつ印象に残るように丁寧に教えてくれます。時々、仕事で友洲児童センターの方へ顔を出す時、わざとらしく「こんにちは」と他人行儀な挨拶（愛情の裏返し？）をする園長、副園長。しかし異動しても「夏フェス（年長組の行事）においで〜や」と声をかけてもらい、気持ちのあたたかさを感じました。これまで本当に上司、同僚に恵まれました。今後も様々な経験を通して成長できるよう精進していきたいと思っています。



ひがみや児童センター
主任 林 大介

都島友の会 令和4年度

昇進&異動職員の紹介

今年も多くの職員が異動や昇進を果たし、新しい環境、新たな立場で頑張っています。



桜宮児童センター
主任 山下 知子

何度目かの異動で、今回、桜宮児童センターに配属になり、今は園に慣れることに必死で日々追われている現状です。「子ども」として「子ども」の目線で「保育が子ども主体であること」、私が大切にしていることです。どの園に異動になっても、法人が90周年を迎えても、社会が変化していても変わらないことです。新しい園との出会いに感謝し、園児や保護者や職員からの学びを自身の人としての成長に、そして保育で返すことができると思っています。



都島友洲乳児保育センター
西垣 ゆきの

異動と聞いたときは驚く気持ちが大きいく乳児クラスの担任が初めてだったため不安と楽しみな気持ちがありました。職員の方々とのお会いしてみるととても優しく受け入れてくださったり、気軽に話しかけて頂いたりして安心したことを思い出します。働き始めると物の場所から分からないことがたくさんあり、思うように動けず戸惑うことが多くありました。しかしそのような気持ちを感じたことでこれから後輩職員などがどのような気持ちか考えながら関わろうと改めて思いました。初心を思い出して新たな気持ちで様々なことを吸収し、務めていきたいと思っています。



それいゆ
施設長 櫻井 雅子

この4月から施設長（管理者）に就任いたしました。今後は経営面の仕事の比重も大きくなっていきます。施設全体のハード面、ソフト面ともバランスよくなるように目を配り、子どもたちも過ごしやすく職員も働きやすい職場にしていきたいと思っております。そのためには職員との連携を取りやすくし、みんな同じ思いで進んでいけるようなチームを作ることが大切だと思います。コロナ禍でワイワイと飲食できない状況が続いていますが、時には仕事以外の話もしながらコミュニケーションをとっていききたいと思っています。



都島児童館
館長 守屋 美智子

4月1日より施設長に就任いたしました木幡利至朗（こばたとしろう）と申します。新しい環境、新しい仲間とともに、より良い施設になるよう、誠心誠意努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。依然新型コロナウイルスの猛威は続いておりませんが、引き続き感染予防を徹底してまいります。



ひまわりの郷
施設長 木幡 利至朗

この4月から主任になりました。保育園からそれいゆへ異動し、働きながら子育てをする難しさや悩みを先輩方に相談・共感していただけた事が、自身の力（プラス思考）にも繋がったと思います。現在はお子さんの成長を応援（支援）する立場として、微力ながら利用者の方々に安心や見通しに繋がる仕事が出来ればと思っています。また今後は後輩職員と共に、新しい意見をもらいながら、それいゆが、子ども・保護者・職員が楽しいと思える場所になる事を目指したいと思います。

都島友洲乳児保育センター
主任 石神 みゆき



異動辞令のお言葉をいただいた時は初めての異動ということもあり、とても複雑な心境でしたが新たな園で数か月がたった今、異動することで姉妹園の特色をより知ることができ新たな発見ができたことで皆さんの学びがあり自分自身のスキルアップに繋がると感じています。また、今まで自分が得た経験を一緒に働く先生方に伝えることもでき、その意見を元に職員みんなで話し合い意見を出し合うことでより素敵な結果が生まれ、園全体の資質向上へと繋がっているのだと感じています。異動を経験することで都島友の会で共に働く先生方のことをより知っていくこともでき、異動も素敵なことだと改めて感じています。

桜宮児童センター
主任 笠井 博嗣



都島友の会が90周年という節目を終え、91年目がスタートした今年、ひがみや児童センターから、桜宮児童センターに異動となりました。何度か法人内で異動を経験してきましたが、異動した各園でいろいろな学びや知識を得ることができました。その今まで培ってきた学びや経験、知識を共に働く職員の育成に役立てながら、一緒に成長していけるように頑張ります。また、親切、丁寧な心掛け、思いやりの気持ちや感謝の気持ちを素直に伝えられる子ども、職員を育てていきたいと思っています。今後はよりいっそう、子どもたちのより良い保育、教育を第一に考え、みんなで桜宮児童センターを盛り上げていきたいと思っています。



令和3年度～4年度

本部事務局長 寄瀬 博光

新型コロナウイルス感染症対策

令和3年度は、新型コロナウイルスの変異ウイルスによる感染が拡大し、「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が繰り返され、都島友の会の児童施設・高齢者施設は、保護者や利用者家族のご協力をいただきながら感染拡大防止に努め、安全安心を第一に、施設運営を行ってまいりました。

●児童施設

今号の各施設のページで紹介したように、コロナ禍の中にあつても、各施設は感染対策を十分取りながら、運動会・発表会・卒園式など諸行事を実施しました。日常の教育保育も、どのようにすれば可能なかなど、縮小あるいは代替行事など工夫をこらして行っていました。

特に令和4年新春以降、オミクロン株により市中感染及び家族感染が急拡大し、園児・職員の陽性判明が相次ぎ、一部の園で休園を余儀なくされました。各施設は看護師連絡会と連携し、予防・消毒方法の見直しと徹底を行ったほか、令和4年2月からは陽性者が判明した場合、各園で濃厚接触者の特定のため「疫学調査」を実施しています。

●高齢者施設

大阪府下の高齢者入居・通所施設でクラスターが多数発生しました。特別養護老人ホームひまわりの郷では、防止のため、施設内消毒の徹底とともに、入居者・施設従事者のワクチン接種及びPCR検査を実施。また医療崩壊が続く中、陽性者を施設で介護する必要が生じた場合の特別対策（ゾーン分け）などを実施し、令和3年度

環境が向上したところです。令和3年度は、沖縄の松島保育園で、経年劣化した外壁・軒裏・格子・手摺などの外部塗装のほか、床張替えなど内部改修工事を実施しました。

また、幼保連携型認定こども園都島児童センターに隣接する土地約97㎡を取得、令和4年度に放課後児童のため、都島児童館の新建物を建設することとしています。

評議員・役員を選任

平成29年4月に就任いただいた評議員の任期満了に伴い、令和3年6月11日に評議員選任・解任委員会が開催され、理事会から推薦のあった8氏（再任5氏、新任3氏）が選任されました。なお評議員は計9氏。また、令和3年6月28日開催の評議員会で理事8名（再任7名、新任1名）・監事2名（再任）が選任され、新しい任期がスタートしました。

人材確保と定着に向けて

コロナ禍の中で、養成校の学生はオンライン授業、接触の制限等もあり、就職フェア・見学会などへの参加も少なく、令和3年度の人材確保は困難を極めました。養成校への訪問、法人ホームページへ紹介動画等リクルート情報の掲載、実習生の対応を十分に行うことなどを通じて、令和4年4月には保育職員17名、放課後児童支援員1名、介護職員2名を採用しました。令和4年度も引続き、養成校との関係を密にし、積極的なリクルート活動を進めることにしています。

は幸い1人の陽性者も発生しませんでした。このような中ではありましたが、ひまわりの郷の利用者は、入居・ショート利用をあわせて、年稼働率は97.03%となり、前年に比べ1.63%アップとなりました。

今後、大阪府下の新規患者数・発症率をみながら、家族との面会方法を改善することとしています。

通所施設のデイサービスひまわりは、新型コロナウイルス感染症のため利用自粛も影響し、厳しい経営環境となりました。このため利用実態に合わせ定員の変更、スタッフ人員配置の見直しなど、経営改善に取り組んでいます。令和4年度は定員25名とし、スリム化した職員数で運営することとしています。

創立90周年事業

令和3年3月1日、社会福祉法人都島友の会は創立90周年を迎えました。

記念行事として、令和3年秋、4年2月に「創立90周年感謝のつどい」を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大により中止しました。流行も落ち着いてきましたので、7月に開催することとしています。

記念誌は、創設者の比嘉正子が築いた理念と、当法人の歴史と実績を紹介する都島友の会90年史「つなぎ、つないで90年」及び写真集「あれから10年 つなぎ、つないで80～90年」を刊行、関係者にご覧いただきました。

施設整備

大阪の各施設はこの10年間で、建替新築や大規模改修がほぼ完了し、園児・利用者にとって安全安心な建物となり、

研修も職員の資質向上のため、園内研修の充実とともに、令和4年度も経験年数に応じて、比嘉正子地域貢献事業研修センターで実施する「保育士等キャリアアップ研修」の受講を推奨することとし、中堅職員の定着に努めます。また保育士宿舍借上げ事業は、令和4年度23名が利用しています。

さて令和4年3月に、令和4年度予算及び事業計画、また令和4年6月には、令和3年度決算及び事業報告に係る理事会・評議員会が開催され、ご承認いただきました。

都島友の会は、91年目がスタートしましたが、100周年に向けこれからも地域の皆さんのお支えをいただきながら、地域福祉サービスの充実に取り組んでまいります。

創立90周年寄附のお礼

都島友の会創立90周年にあたり、寄附のお願いを申しあげましたところ、保護者・施設利用者家族をはじめ、平素よりご厚誼をいただいております多くの皆様、役職員から426件798万8000円(令和4年5月10日現在)の御厚志を頂きました。深く感謝申し上げます。法人の施設の維持と更なる充実、地域における公益的な取組みなどに使わせていただきます。

なお、ご芳名につきましては、多数に上るため掲載を省略させていただきますこと、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

▲都島友の会90年史&90周年記念写真集

『忘れないうでください 私たちは不幸せじゃなく 幸せになるため生きてきたのです。』
あるドラマのメッセージ

「地域の力 小さな支え合い」を目標に10年余り…。

「多くのひとたちの悩み 人生を聴き、寄り添おう。近づこうとしてきたつもり…。」

けれど、今、世間で起こっている事象に触れるにつけ、所詮「他人事」だったのではないかと苦しいで振り返る。

不登校は自分のせいでは？と悩む母。親からの虐待で駆け込んできたMちゃん。子どもの病気に悩むママ。高齢になり一人飯は寂しい…。マタニティブルーでしんどくなり、子育てに自信を失くした女性。ワンオペの育児に疲れた母親。母国ではない日本での大変な仕事探し。生活困窮で住む家探しの高齢者…。「生」を受けた以上はそれでも頑張って生き続けねばならない。

悩み苦しむ人たちが新たなスタートが切れるように、様々な機関と連携しながら支援していくのが「役目」と相談に応じてきた。解決の糸口だけでも見つかれば救われるのではと自己流に解釈し、「役目」を担ってきたつもりだった。「あれからどうされているのか？」と気になるもの、その人たちがうまく「再スタート」できたのか、その後のことは定かではない。知らせがないのは無事という言葉を受けないのか、「いやちがうよな」と思ってしまう。「役目」を担ってきたつもりでも、その人の人生のほんの少し関わっただけ、いや関わることも出来なかったのでは？と、今更ながら自分の安直な薄っぺらい心の裏側を見たような気持ちになる。

コロナ禍で職を失い、副作用で今も苦しんでいる人たち、ヤングケアラーと呼ばれる若者、物価は高騰し、若い世代から高齢者まで生活を圧迫、年金は下げられ高齢者の生活は何処へ？

「丁寧に生きることは自分の人生が豊かにすること」だと、どこかで読んだことがある。

「でも本当に豊かさって何だろう？」



私の好きな言葉に、『幾星霜』という言葉がある。美しい日本語の文字、響き…。そして何より長い人生を生き、苦勞を重ね、自らを振りかえる中で、ふと嘆息するように零れ落ちる言葉だ。ようやくこの言葉の響きから自らを振り返る年齢になった今、『人は誰もが幸せになるため生きている』し、『誰もが幸せに生きる権利を持っている、いや幸せになる義務があるのだ』と、つくづくそう思う。

「地域の力 小さな支え合い」長い間、社会福祉の世界に身を置く者として、この言葉、この意味をもう一度深く噛みしめ、同じ「生」を授かり、共に生きる仲間として、「幸せになるために支え合い、共に生きていこうよ」と小さな声ながら精一杯エールを送りたい。

（地域貢献支援員 岡本和江）

今号の表紙



当法人の創立90周年・渡久地理事長が端玉双光章を授章され、お祝いのイラストを描くことになりました。新型コロナウイルスが流行し、マスクで表情が隠れてしまう日々。そんな、状況にも負けないみんなの嬉しい、楽しい笑顔をイラストにしています。周りには都島友の会のシンボルである「ひまわり」を散りばめ、珊瑚や魚を描いて当法人にゆかりのある沖縄を表現しました。

都島第一乳児保育センター 杉原優子

編集後記

新型コロナウイルス感染症対策に向き合い、早3年目に突入しています。私たち都島友の会では、「コロナ禍だから出来ない、しない」とあきらめるのではなく、「できないこともあるけど、なら、代わりに何ができる？」と、教育保育、療育、介護、それぞれの現場の中で懸命に考えてきました。そこにはやはり職員ひとり一人の力があり、たくさんの方の知恵や工夫が散りばめられています。

新型コロナウイルスの終息を切に願いながら、これまで同様、「親切、丁寧、やさしく」という気持ちを職員一同、忘れずにいたいと思います。

創立90周年を終え、都島友の会は次の100周年に向かっていますが、今まで大切にできたことをしっかりと心に刻み、次の未来に向かって、つなぎ、つないでいきたいです。

ひがみや児童センター 林 大介